

北見市常呂町などを舞台に
6月30日に開かれたサロマ湖
100キロウルトラマラソン
(道陸協、北海道新聞社など
主催)で、格別な思いを持つ
てゴールした男性がいる。が
んを乗り越えて出場した東京
都港区の会社員大久保淳一さ
ん(49)。「サロマ湖の100
キロを完走するのが目標」。今
回の挑戦を闘病生活の心の支
えとした大久保さんは今後、
自らの経験を生かし、患者への
支援活動に力を入れる。

(北見報道部 金子俊介)

外資系証券会社に勤める大
久保さんは2003年からサ
ロマ湖ウルトラマラソンに出
場し、4回連続で完走した。
しかし07年、睾丸がんを発症、
腹部や肺にも転移していた。
手術、厳しい治療に耐え、が
ん細胞は壊死したが、抗がん
剤の副作用で生存率は20%以

がんになつても人生は終わりではない

サロマ100キロ完走

東京の大久保さん

夢は続く



100キロを完走し、喜びの表情
を浮かべる大久保淳一さん

経験生かし患者支援へ

ゴール。勝利を宣言するよう
に両手を天に突き上げた。

ウルトラマラソンの完走を
達成した大久保さんの新たな
目標は患者支援。がんに打ち
勝った意味をかみしめながら、「患者同士をつなぎ、が
んを経験した人の就職を支援
し、社会の役に立ちたい」と、
全国の患者を支援する活動に
取り組む。

下とされる重い病気の肺線維
症を併発、「坂道を転がって
いくような気持ちだった」。
そんなとき、乳がん患者が
ランニングに汗を流している
という記事に勇気づけられ
た。「自分も100キロを再び
はフルマラソンを完走できる
完走したい」。サロマ湖ウル
トラマラソンを目指し、前向
とマラソンへの挑戦をプログ
リスively進めた。その後、退院し自宅療養を経
て09年に社会復帰できた。

肺線維症で肺機能の3分の
1を失いながらも、10年から
ランニングを再開し、12年に
に言ひ聞かせ、諦めなかつた。
でも、「『がんになつても人
生は終わりではない』と患者
を励ましたい」と何度も自分
とマラソンへの挑戦をプログ
リスively進めた。その後、退院し自宅療養を経
て09年に社会復帰できた。

肺線維症で肺機能の3分の
1を失いながらも、10年から
ランニングを再開し、12年に
に言ひ聞かせ、諦めなかつた。
でも、「『がんになつても人
生は終わりではない』と患者
を励ましたい」と何度も自分
とマラソンへの挑戦をプログ
リスively進めた。その後、退院し自宅療養を経
て09年に社会復帰できた。

で発信し、全国各地から多く
の励ましと応援が寄せられ
た。そして迎えたサロマ湖ウル
トラマラソン。前半は足が重
く、前に進まなかつた。それ
でも、「『がんになつても人
生は終わりではない』と患者
を励ましたい」と何度も自分
とマラソンへの挑戦をプログ
リスively進めた。その後、退院し自宅療養を経
て09年に社会復帰できた。

で発信し、全国各地から多く
の励ましと応援が寄せられ
た。そして迎えたサロマ湖ウル
トラマラソン。前半は足が重
く、前に進まなかつた。それ
でも、「『がんになつても人
生は終わりではない』と患者
を励ましたい」と何度も自分
とマラソンへの挑戦をプログ
リスively進めた。その後、退院し自宅療養を経
て09年に社会復帰できた。